

第41回全国育樹祭

森を育てる豊かな暮らし 森が育む確かな未来

11月19日（日）、「森を育てる豊かな暮らし 森が育む確かな未来」をテーマに、第41回全国育樹祭が香川県まんのう町「香川県 満濃池森林公園」を会場に開催されました。



皇太子同妃両殿下によるお手入れ



齋藤農林水産大臣によるみどり（苗木）の贈呈



緑の少年団活動発表

「豊かな森を次の世代へ」

全国育樹祭は、健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるため、昭和52年から毎年秋に開催されている国民的な緑の祭典です。全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされる育樹運動のシンボリック行事と、皇太子殿下によるおことはや各種表彰等の式典行事のほか、参加者による育樹活動等の行事が行われています。

「森とともにある豊かなふるさと未来」

「香川県 満濃池森林公園」で開催された式典行事には、約5,000人が参加。皇太子殿下のおことばの後、森林の育成や林業の発展に貢献した個人・団体を対象とした緑化功労者表彰や、全国の緑の少年団へ齋藤農林水産大臣からみどりの贈呈が行われました。式典のお手入れ行事では、天皇皇后両陛下が昭和63年にお手植えされたヒノキとクワガネモチに皇太子同妃両殿下が枝打ちと施肥のお手入れが行われました。

その後、香川県の自然が生み出した不思議な楽器「サヌカイト」の神秘的な音色と詩の朗読などで豊かなふるさとへの想いや未来へ向けたメッセージを表現したメインアトラクション「響け！ みどりの交響詩」や林業後継者、林業担い手、森林ボランティアによる「誓いのことば」、国土緑化推進機構の佐々木毅理事長による「大会宣言」等が行われ、式典は幕を閉じました。

次回、第42回全国育樹祭は「育樹から木のある暮らしつないでく」を大会テーマに平成30年秋に東京都で開催される予定です。